

トカゲ? カナヘビ? どっちがどっち?

万博記念公園内には、ニホントカゲ(以下トカゲ)とニホンカナヘビ(以下カナヘビ)の両種とも生息しています。

良く知っているようで知らないことが多い両種ですが、ポイントさえ覚えれば、間違えることはありません。

トカゲ：体の表面に光沢があって、しっとりしているように見えます。日のよく当たる場所で生活します。

カナヘビ：体の表面は光沢がなく、カサカサしているように見えます。草むらの中で生活します。

次の写真は、どちらがカナヘビでしょうか？

※答えは下の枠外にあります。



自然観察学習館

〒565-0826 大阪府吹田市千里万博公園 1-1

TEL: 06-6877-6923

✉アドレス: expo70gakusyu@cronos.ocn.jp

知っているようで 知らないこと

卵について

カナヘビのメスは、落ち葉や石の下、柔らかい土の中に大きさ約1cmの卵を年に複数回、一度に2~6個産みます。産んだらそのまま、世話をすることはありません。

トカゲのメスは、土の中の巣穴で産卵します。産卵するのは年に一度だけで、一度に5~16個の卵を産みます。産んだ後は、卵の汚れをきれいにしたり、動かしたりして孵化するまで卵の世話をします。

しっぽについて

カナヘビの尻尾は生まれてから、大人になるまで、同じ色をしています。一方トカゲは、子どもの時はメタリックブルーのきれいな尻尾をしています。しかし、大人になると、褐色の尻尾になります。捕まえようとする、両方とも自分で尻尾を切ります。「自切点」と呼ばれる場所があって、ここで切れれば、引きちぎられるより痛くないという点なのです。

敵から逃げるときはここに力を入れて、自分で切り離します。そしてこの尻尾は、切られてからしばらく動き回って、敵の目を引き付けます。そのすきに本体は逃げて生き延びます。

一度切れた尻尾は、時間がたつと生えてきますが、骨は再生せず、軟骨が入っています。トカゲやカナヘビの尻尾に、骨が入っているということは、生まれてから一度も切ったことがないということです。尻尾に触ってみたいくなりますね。

【今月の行事】

8(土) 木や竹、木の実を使った工作

9(日) トンボの観察会

14(金) 季節の植物観察会

22(土) 木や竹、木の実を使った工作

23(日) 梅雨のきのこ観察会 ※予約が必要です。

30(日) 日本庭園の植物の観察会